

小平市立小平第四中学校「学校だより」



四季

第11号 (1月号)

～四中の季節～

教育目標 ●自分で考え進んで実践する人間 ●公共心に富み情操豊かな人間
●勤労を尊び責任を重んじる人間 ●健康でたくましい人間

令和7年1月10日発行

校長 関 勝 志

〒187-0045

小平市学園西町1-3-1

☎ 042 (341) 4344

Mail gakkou@34.kodaira.ed.jp

「お守り」のご利益

校長 関 勝 志

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

令和7年がスタートしました。今年は巳年、正確には乙巳(きのと・み)です。蛇というところか怖いイメージがあります。確かに、マムシのように毒を持つ蛇もいます。一方、アオダイショウは学校の裏庭や人が住む家などで見かけることも多く、古くから守り神と考えられています。

また、蛇が脱皮する(皮を脱ぎ捨てて生まれ変わる)ことから、巳年は新しい始まりや変化、成長を意味しています。これまでとはちょっと違う、成長した(一皮むけた)こどもたちの姿が見られることを期待しています。

お正月は、初詣をする人たちでどこも賑わっていました。お参りし心を込めて挨拶をすれば神様と繋がることもできるのではないかと思います。人は往々にしてお願い事が先行してしまうものです。お費銭を入れ、神前で手を合わせるやいなや、いくつもいくつもお願い事ばかりしていたのでは、神様もたまったものではありません。まずは神様に感謝を伝えることが大切です。人はちょっと気に入らないことがあっただけでも口癖のように「最悪～」と言ったりします。でもよく考えると、良くないことや嫌なことがあったとしても最悪ではないことがほとんどです。そんな時に、最悪にならずに済んだのも神様のおかげだと思えば、感謝する気持ちも自然と湧いてくるものです。

私は熱海にある來宮神社をお参りしました。パワースポットとしても有名です。樹齢2100年、幹の太さ24メートルの大楠(クスノキの巨樹)が御神木です。幹を一回りすると一年寿命がのびると伝えられていて、健康祈願の参拝者が多く訪れています。私も一回りしてみました。來宮神社にはちょっと変わった珍しいお守りがありました。「酒難除守」は、お酒を飲むことよって起こるあらゆる災難、事故や喧嘩、病気などから守ってもらえるというご利益があります。「食運守」は、美味しい食べ物に関する運がアップします。「むし除守」は、浮気虫(浮気癖のある人)や賭博虫(賭け事が止められない人)、赤ちゃんの疳(かん)の虫、弱虫など凶虫を退けます。「仕事守」は、仕事が順調に進むよう祈念されています。「まゆ玉」は、多くの玉が幸せに導くと信じられています。そんな中、私は「凧(なぎ)守」を授かりました。波風が立たない平穏な日々が続くようにという願いが込められています。みんな何かしらのお守りを持っているのではないのでしょうか。おそらく、3年生の多くは「学業成就」や「合格祈願」のお守りを持っていることと思います。

「お守り」とは、厄除けや幸福を招く(招福)など人の願いを形にした縁起物のことです。お守りの中に入っているのは紙や木、金属でできた御神璽(ごしんじ)という神様の宿るお札です。神社の神職が祈祷(御霊入れ)することで神様の力が込められています。そして、お守りの袋の口を紐で閉じて神様の力が逃げないようにしています。

また、「お守り」は神様の力が込められているものだけに限定されるものではありません。高校生が部活動の仲間や、先輩、後輩がフェルトで作ってくれたお守りをバッグに付けているのをよく見かけます。神前でお祓いも祈祷もされていませんが、その人に対する想いや願いが込められていれば、お守りの力を発揮し、神社のお守りとは違う温かいご利益があるのかもしれない。そう考えると「お守り」にはいろいろな形があっ



ていいのだと思います。ただし、「お守り」の力は魔法や奇跡を起こすものではありません。あくまでも心の支えです。願いを叶えるのは自身の努力以外にはありません。それでも、あと少しで目標や夢が成し遂げられそうな時や、辛くてくじけそうになった時は、「お守り」が力をかけてくれると信じたいです。いよいよ始まる3年生の高校入試も「人事を尽くして天命を待つ」の気持ちで、頑張っしてほしいと思います。

年の初めは、もちつきやどんど焼き、まゆだまづくりなど、日本の伝統的な行事が各地で行われています。しかし、残念ながらその数は少しずつ減ってきています。いま、伝統文化を継承する若い人材が求められています。

1月11日(土)の午前10時から、小平十小の校庭・体育館・多目的ホールにて、十小地区青少対の「もちつき・まゆだま作り」が開催されます。この機会に少しでも多くの四中生がもちつきやまゆだま作りを体験して日本の伝統文化の継承者となるとともに、地域の方々との繋がりを深めてくれたらうれしいです。



〈東京都大会〉 作文委員会賞

『優先席の存在意義について』

2年A組 黒澤 奏和

優先席。鉄道やバスなどの公共交通機関に設置されている身体障害、高齢者、乳幼児連れ、病人、負傷者「など」の人が着席することを優先する座席である。「高齢者や体が不自由な人の役に立ちたい」という思いから設置されたそう。しかし、自分の中には一つの疑問がある。それは「今の世の中、優先席は必要とされているのか？」

自分がこのような疑問を持つきっかけになったのは、小学校五年生ぐらいで受けた道徳の授業だ。その時の題材は優先席についてであり、優先席についてのトラブルを経験した数人がその時の状況や心境について語ったものだった。例えば妊娠初期の人が優先席に座っていた時に、他の人からありえない態度を取られたことや理不尽を感じさせられたことがぎっしりと書かれていた。その頃の自分はそのような態度を取る人に対して自然に怒りが出てきて、ワークシートに人との接し方に問題があると書いていたと思う。友達もそのような意見を書いていた。その時は人との接し方について深く考えていた。

確かに、そのような態度を取る人の言葉の使い方や人との接し方に問題が十分ある。けれども今となって考えてみると「優先席に座っていた」ということがトラブルにつながってたのではないかと思った。

そもそも「優先」の定義は何か？調べてみると「他よりも先にすることになっていること」と出てきた。つまり、先に座らせるべき人がいなければ座っていいということだ。対象とする人「専用」ではないから座っていいということになる。けれども実際に優先席に座っている人は少ない。自分が電車に乗るときも、優先席に誰も座っていないことが多い。優先席に近づかないという人もいる。なぜそういうことが起きるのか。それは、相手の価値観を考えずに自分の価値観を押し付けるからではないかと考えた。

そもそも日本の文化的に席をゆずるということは難しいのではないかと思う。なぜならば、他人に対して無関心であることや、席をゆずって断られたらと消極的に考えてしまうことが、日本人の特徴として挙げられるからだ。そのような特徴から、日本ではゆずるということをしにくい環境になってしまっている。だからゆずるという行為を避けるために座らないという風潮になってしまっている。

そのような中でも、優先席の意味を理解して、優先者が来たらゆずる価値観を持って座っている人もいる。しかしそういう価値観を全く理解しようとせず、優先席に座っているだけで注意をするという人もいる。その人も、その人なりの価値観や正義感で注意するのだろう。そのような価値観の違いから、お互いの価値観を押し付け合うことでトラブルが起きてしまう。そんなトラブルが起きてしまうと、優先席を必要とする人も座りにくくなってしまふ。

また、「優先される人」の中にもいろいろな価値観の人がいる。席をゆずられることに対して、失礼と感じる人や差別的に捉える人もいる。

このように高齢者などの役に立てたら良いなという考えで設置された優先席がさまざまな場面で起こる価値観の違いから、今ではトラブルになるものとしてみなされてしまっている。

生きている人の分だけ、考え方や価値観がある。考え方が同じ人もいれば違う人もいるのだ。全ての人が同じ考えを持つことは不可能に近い。

大切なのは、「全ての人の価値観には違いがある」ということを理解することである。その違いを無視し、拒絶し、対立するのではなく、受け入れて共存することが社会生活や学校生活を維持するために必要だ。それは簡単なことではないが、理解し合い、一歩ずつ歩み寄っていくことが、良い環境を築くことになる。

その一歩を、「優先席を使用する」ことから始めていきたい。「優先席を使用しない」のではなく、相手の価値観を理解しながら「使用する」。優先席を、価値観を理解し合うきっかけにして、相手を尊重する社会にする。そのために、やはり「優先席は必要」なのである。

■落ち葉はきボランティア活動■

玉川上水周辺の落ち葉はきボランティア活動を12月14日（土）に実施いたしました。昨年度より四中の冬の恒例行事となりました。当日は日差しは出ましたが冷たい風が吹く中、ソフトテニス部、卓球部、演劇部、吹奏楽部、女子バスケット部、野球部の生徒約100名が参加してくれました。顧問の先生方も加わって、笑顔で落ち葉掃きを行いました。すれ違う地域の方から感謝の言葉をかけられたり、犬の散歩の方と会話をしたり、道行く人に挨拶しながら落ち葉はきをする四中の生徒の姿は、微笑ましく大変立派に見えました。集めた落ち葉は、向野農園で腐葉土等に活用されます。



■2月の主な行事■

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| 3日 全校朝礼 安全指導 | 17日 生徒会朝礼 英語スピーキングテスト（1・2年） |
| 5日 中学校体験入学 | 18日 学校保健委員会 |
| 7日 新入生保護者説明会 | 18日～21日 放課後学習教室 |
| 13日 専門委員会（⑤カット） | 21日 都立一次前期入試 |
| 14日 避難訓練 中央委員会 | 25日～27日 学年末考査 |